

2月の安全運転のポイント 平成23年2月号

冬期は積雪や路面凍結など運転にとって危険な条件が重なるときであり、特に寒冷地に出かける場合は、事前のしっかりとした準備と道路状況に応じた慎重な運転が求められます。

そこで今回は、冬期の安全走行のポイントについてまとめてみました。

出発前の準備

交通情報や気象情報を収集する

冬期は、降雪による通行止めや速度規制もありますから、出発前に、目的地方面の交通情報や気象情報を収集して、余裕のある走行計画を立てることが大切です。高速道路の場合は、東日本、中日本、西日本の各高速道路会社のホームページで、降雪等の気象状況や通行止め等の交通情報が掲載されていますので、それらの情報を事前にチェックしておきましょう。



タイヤや燃料等をチェックする

雪道や凍結路はブレーキをかけてから車が停止するまでの距離が長くなりますが、タイヤがすり減っていると一層停止距離が長くなります。出発前には、特にタイヤの摩耗状態をしっかりチェックするとともに、タイヤの空気圧や傷の有無、バッテリーやウォッシャー液などのチェックを行いましょう。

また、通行止めに遭遇したり、雪に閉じ込められて立ち往生するケースも起こり得ますが、そのようなときでも暖房を効かせるためにエンジンを切ることにはできません。そのため予想外に燃料を消費するおそれがありますから、出発前に燃料が十分かどうかをチェックするとともに、早めの補給を心がけましょう。



タイヤチェーン等の携行品をチェックする

ノーマルタイヤの場合はタイヤチェーンが必需品ですが、スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤを装着している場合でも、天候や路面状況によってはタイヤチェーンが必要となる場合があります。冬期はタイヤの種類を問わず、タイヤチェーンを携行しましょう。

また、作業用の軍手や夜間作業のための懐中電灯、フロントガラスやワイパー、鍵穴などの凍結に備えて解氷スプレーなども用意しておくとい良いでしょう。

積雪した場所で車に乗り込むときの留意点

車の屋根やボンネットに雪が積もっていたり、フロントガラスに雪や霜が付着している場合は、それらを除去し、視界を確保することが大切です。

また、靴に雪が付着した状態でアクセルやブレーキを踏むと、足が滑ってペダルを踏み損ねるおそれがあります。車に乗り込むときは、靴に付着している雪をしっかり払い落としましょう。



冬期の安全走行のポイント

スピードを落とし車間距離をとる

雪道ではスピードを落とし、車間距離を十分にとって走行する必要があります。積雪のない道路を走行している場合でも、橋の上やトンネルの出入り口や切り通し、濡れた路面の日陰の部分などは路面が凍結しているおそれがあります。また、雨や雪の降った日の深夜から明け方も路面凍結のおそれがありますから、スピードを落として慎重に走行しましょう。



ブレーキはソフトに踏む

凍結路や積雪路で強くブレーキを踏むとスリップを招きやすいので、乾燥路と同じ感覚でブレーキングを行うのは非常に危険です。ブレーキはソフトに踏み、徐々に停止するようにします。

また、急ハンドル、急ブレーキ、急発進、急加速などの「急」のつく運転もスリップの原因となりますから避けましょう。

停止するときは早めに減速する

雪道の交差点付近は、雪が踏み固められて滑りやすくなっています。そのため減速のタイミングが遅れると、交差点の手前で停止できずに交差点内に進入してしまう危険があります。

前方の交差点が赤信号のために停止するときや、一時停止の標識により停止するときは、早めにブレーキを踏んで減速しましょう。



カーブでは手前で十分減速する

雪道のカーブはスリップしやすいので、カーブの手前であらかじめ十分に減速してからカーブに進入しましょう。

また、積雪のためセンターラインの見えないカーブでは、対向車線にはみ出さないよう十分注意しましょう。



トンネル内の部分凍結に注意する

トンネル内には積雪はありませんが、走行車両の落とした雪によって部分的に路面が凍結していることがありますから、路面の状態によく注意する必要があります。また、トンネルを出たとたん雪道になっていることもありますから、出口に近づいたらトンネルの先の道路状況に十分注意しましょう。

視界が悪いときは避難場所に退避し様子を見る

激しい降雪や地吹雪などで前方が見えにくいときには、最寄りの避難場所（高速道路ではサービスエリア等）に退避し、安全な視界が確保できるまで待つことも重要です。

「ご相談・お申込先」